

令和5年度 出雲サンサン保育園 事業計画

1. 保育理念

一人ひとりの子どもの育ちを大切に、地域の中にとけ込んだ温かい保育園を目指します
◎木の温もりのある開放的園舎、地域の方からの温かい眼差しに包まれた保育園

保育方針

「よく寝、よく食べ、よく遊ぶ」生きる力の基礎を育成します

保育目標

- ① 健康な身体と心を持ち、意欲をもって活動できる子
- ② 助け合う仲間関係が持てる子
- ③ 豊かな感性を持ち、自分の思いが表現できる子

2. 保育事業

(1) 子ども一人ひとりを尊重した保育に取り組みます

- ・主体的な遊びの中から楽しさに気づくことができ、自然に楽しめる保育展開が出来るよう環境構成等考え工夫します。
- ・子どもの発達過程や状況を把握し、小学校入学以降を見据えた乳幼児期の発達の連続性に着目した保育を大切にします。

(2) 安全で信頼のおける保育に取り組みます

- ・新型コロナウイルスの感染状況を判断し、迅速な対応に努めます。
- ・人災、災害、保健マニュアルを基に適切な対応を図ります。
- ・保育園安全計画に基づき、事前の確認、事後の評価により安全確保に努めます。
- ・自己評価や保護者、地域、第三者委員の意見等を真摯に受け止め、保育園としての課題と改善点を明確に伝え、共に育む保育園として相互の意識を高めます。
- ・個人に関する情報については、ネット上での漏洩など危機管理を伝え、保護者と共に慎重に取り扱います。

(3) 地域と共に子どもの育ちを支援します

- ・地域の方々との関わりを通して、保育所機能を生かした子育て支援を実践します。
- ・保護者や地域の子育て家庭に情報を発信し、子育て力向上の充実を図ります。
- ・神西小学校校区で保幼小の連携を深めます。

(4)保護者と共に子どもの育ちを支え共に歩みます

- ・保護者の心に寄り添い、子どもと保護者の安定した関係形成に努めます。
- ・保護者の養育力向上に努め、必要に応じて、行政並びに専門機関と連携を密にして対応します。

(5)職員の資質の向上に努め人間力を高めます

- ・セルフチェックに取り組み、虐待等の不適切な保育について意識を高め、全職員で未然防止に努めます。
- ・園内研修の充実を図り、職員間の連携情報共有により、一人ひとりが自信をもって保育が出来る環境を作ります。
- ・日々の保育を振り返り、様々な学びで知り得た新たな保育に関する内容を様々な会議で意見交換し協働性を高めます。
- ・保育システムを活用し、業務の効率化を図ります。

3. 特別保育事業

(1)一時預かり事業

- ・家庭内の子育ての孤立化解消等の支援と、保護者の都合により子育てが困難な場合に一時的に保育支援します。

(2)延長保育促進事業

- ・仕事等により、保育時間内に迎えに来られない場合に必要に応じて保育支援します。

4. 保健

(1)健康管理に努めます

- ・保護者との情報交換を密にし、毎朝の視診を丁寧に行うとともに、健康状態及び発育・発達状態を把握し、保育に生かします。

(2)体調不良時、緊急時には適切な対応を行います

- ・体調不良や事故が発生した場合、看護師との連携、指示のもと速やかに対応します。

(3)感染症の予防と対策に努めます

- ・感染症情報システムの活用により、地域の感染状況を把握し情報を的確に伝え、予防に努めます。発生した場合はマニュアルに基づき対応します。

(4)健康増進に努めます

- ・保健計画に基づき、健康の保持及び増進に努め、健康状態や疾病等の把握に努めます。

- ・園医により定期的に健康診断を行います。
 (園児) 健康診断(2回) 耳鼻科検診(1回) 歯科検診(2回)
 (職員) 健康診断
- ・定期検査、安全衛生に努めます。
 (園児) 身体測定(毎月) 検温(午前・午後 一日2回)
 突然死症候群予防(乳児のみ睡眠時15分おきチェック)
 (職員) 検便(O-157検査含む) 検温(午前・午後 一日2回)
 (0歳児担任・給食担当・保健担当/毎月 その他職員1/3ヶ月)

5. 食育

(1) 食べる意欲を引き出します

- ・楽しく心地よい食体験を積み、「食いたい」気持ちを大切にします。
- ・大皿から取り分ける給食により、自分の食べられる量を調整したり、仲間を思いやる心を大切にします。(感染症流行時は中止し対応します)
- ・料理の匂いや作っている音、姿を見て、空腹を感じ、食事が楽しみに待てるようにします。
- ・食器は温もりの伝わる陶器、口当たりのやさしい竹箸、竹のスプーン(0歳児)を使って食べることを大切にします。
- ・健康な身体作りに必要な食品の種類や働きを知り、食べる意欲につながる食育学習の時間を大切にします。

(2) 五感を使った食体験を通して学びます

- ・菜園活動や調理体験等により、食べ物を大切にする気持ちや感謝の心を育てます。
- ・給食には出来るだけ地元の食材を使い、感謝の気持ち、ふるさとを想う気持ちを育てます。
- ・昔ながらの食文化に触れることのできる食事を大切にし、四季の移り変わりを感じられるようにします。
- ・箸や茶碗の持ち方、姿勢など年齢にあったマナーを身につけます。
- ・食事の準備、後片付けなども食事の一貫として大切にします。

(3) 味覚を大切にします

- ・化学調味料や加工食品を控え、旬の食材をふんだんに使い、自然の旨みや風味を感じることのできる食事を大切にします。
- ・おやつは4回目の食事としてとらえ、添加物のない手作りのものを提供します。

(4) 個々への対応を図ります

- ・離乳食は月齢にとらわれず、発達や機能に合わせ、家庭と連携をとりながらすすめます。

- ・出雲圏域保育所における食物アレルギー対応の手引きを基に、食物アレルギー児への対応は医師の指示により、食材・調理方法等に配慮し、家庭と連携をとりながら慎重に進めます。

(5) 衛生面への配慮に努めます

- ・新型コロナウイルスの感染対策として、会食の密を避け、適正な距離の保持に努めます。
- ・食前食後の手洗いやテーブルの消毒などにより、衛生面に配慮します。

6. 保育環境

(1) 子どもが安心して生活し、伸び伸びと遊べる環境に努め、必要な改修・修繕は速やかに行います。

- ・新型コロナウイルス感染対策として、園内消毒・換気に努めます。
- ・安全点検、維持管理と美化に努め、必要な修繕は速やかに行います。
- ・毎朝、大気汚染の状況確認を行い適切な対応に努めます。
- ・省エネとコスト意識を持ち、設備や備品等を適切に取り扱います。

(2) おもてなしの心を大切にします

- ・笑顔と挨拶を忘れず、明るい雰囲気づくりに努めます。

7. 防災・防犯

(1) 毎月の避難訓練は関係機関との連携のもと実践力を高めます。

(2) 連絡メールシステムを活用し、緊急時の連絡を検証しながら確実に行ないます。

(3) 「地震防災管理計画」「保育園安全計画」を基に、各自がとるべき行動を再確認します。

＊「事業継続計画」感染症、自然災害時に取り組みます。

(4) 防災・防犯に関する研修や訓練、設備活用等の対策により安全の確保に努めます。

(5) 様々な災害を想定した訓練を実施し、防災防犯に対する意識を高めます。

出雲サンサン保育園 事業報告

1. 主要事項

急速な少子化の中で、令和5年度の保育利用者状況は、定員60人に対し71人、118%の利用率であった。

5月に新型コロナウイルス感染症が、感染症法上の分類「5類」に引き下げられ、園児、保護者のマスク着用や送迎時の園舎内への入室の緩和、様々な面での緩和を検討し保育活動、行事を実施することができた。4月、8月に園児、職員の新型コロナウイルス感染症の感染が見られたが、職員間の協力体制で休園措置をとることもなく保育を継続することができた。その後、感染症の大きな流行もなく、手洗いの励行やこまめな換気等、基本的な感染症防止対策を実施しながら、子どもたちの健康維持と継続的な保育に努めることができた。

令和4年度から不適切な保育事案の報道が相次いだことで、令和5年5月にガイドラインが策定され、不適切な保育とは、虐待等と疑われる事案と定義された。子どもの人権についての園内研修の実施、保育について気軽に話し合いが持てるような風通しの良い保育環境、また保護者との信頼関係を築いていく取り組みを継続的に行ってきた。子ども理解を深め、保育実践の振り返り、語り合える関係性の大切さを実感する。今後も引き続き、家庭との連携を大切にしながら、定期的に子どもの人権・権利を守り、子どもを尊重する保育を継続して取り組んでいきたい。

職員、保護者と子どもの情報を共有し、市の巡回相談事業、関係機関と連携を取り、子どもたちの心にしっかり寄り添った保育、支援に取り組むことができた。

災害や安全管理、健康管理、食事についてのマニュアルを見直し、また、BCP（業務継続計画）を策定し、子どもたちが安心して過ごすことのできるよう、保護者が安心して子どもを預けることができるよう、安全な保育環境に努めた。

指導計画や園の実情やねらいに照らし合わせた行事、保育システムの見直しを行い、保育士の業務負担軽減の観点から、保育実践の改善を継続的に行っている。保育システムについては、保護者にアプリを導入してもらうことによって、欠席連絡、アンケート、お便りの配信等活用したが、指導計画作成の重複等あり、令和6年度から新システム移行の予定である。

子育て支援の取り組みは、新型コロナウイルス感染症の緩和から、園開放「サンサンへ行こう！」も段階的に再開できた。また、地域への情報発信である子育て情報チラシ「サンサンへ行こう！」

「子育て相談」を毎月発行した。次年度に向け、地域の中で園としてできることを探りながら、広報活動や活動実践を行い、地域の子育て支援の拠点の一つとなるよう努めていきたい。

評価・反省

1. 保育事業

- ・未満児会、以上児会を定期的に行い、クラス内だけでなく、全職員で子ども一人ひとりの育ちを考え、子ども理解やより良い保育に繋げていくことができた。
- ・異年齢保育を定期的に行い、異年齢児へのあこがれや思いやりの気持ちが育まれるよう子ども同士の関りを大切にした保育に取り組むことができた。
また、クラス担任だけでなく、他の職員の様々な視点で子どもを見ることや、関係機関との連携を行い、よりよい支援に繋げることができた。
- ・米作りや笹巻作り、とんどさんなどの地域交流や学校交流、法人内の施設間交流を行い、子どもたちの経験の幅を広げ、豊かな人間性や社会性を育むことができた。
- ・内田裕氏を招き、「子どもの見取り・記録と日々の保育・週案や連絡帳の繋がり等」について職員研修を行った。職員の質の向上に向け、保育の中で子どもを見る視点や記録の取り方について、保育の基本的な学びになり、日々の保育や書類作成に生かすことができた。また、日本福祉パステルアート協会 常松陽子氏に来園していただいた。パステルを用いての絵画技法について学び、表現・制作活動の一つとして、保育の中に取り入れることができた。今後も継続的に、保育園の実情に合わせた研修やワークショップを計画していきたい。

2. 特別保育事業

(1) 一時預かり事業

短期の利用が多かったが、利用者のニーズに出来るだけ応えられるよう、同年齢のクラスの状況や職員体制等の確認をしながら受け入れを行った。

(2) 延長保育促進事業

保護者のニーズに応じて、急な依頼にも対応した。当日の急な依頼により、おやつ提供に苦慮することもあった。

3. 保健

- ・けんこうだよりを配信し、保健行事や感染症予防対策、健康管理についての情報提供を行うことができた。
- ・けんこう連絡ボードを活用し、感染状況について保護者に注意喚起し、情報周知に努めた。
- ・適切な応急処置や感染症の対応ができるよう、マニュアルの確認や見直しを行った。より迅速な対応をしていけるよう、実践的な研修の必要性を感じた。
- ・室内の清掃や消毒、手洗い等を徹底し、感染拡大防止や予防に努めることができた。
- ・保健年間計画を作成し、全職員が共通理解の下、役割分担、協力体制をとって実践し、クラスの保育にも活用することができた。

4. 食育

- ・和食を中心としながら、色々な料理や食べ物を提供できるよう、委託業者との連携を図り、給食の献立内容や食材を検討した。また、給食時に、献立や使用する食材、栄養等の放送を始めたことで、子どもたちの食への興味、食べる意欲が高まってきた。今後は、効能や由来なども伝えながら、継続して取り組んでいきたい。
- ・離乳期では、おにぎりの形状や粥の固さを調整しながら、個々の発達に応じた支援ができた。今後は、おたよりに通じての情報発信も行っていきたい。
- ・食物アレルギーについては、保護者や職員間での連携を図りながら進めることができた。今後も保護者に安心してもらえるように、危機管理意識を持ちながら取り組んでいきたい。

5. 保育環境

- ・ヒヤリハット・事故の報告・検証を行い、保育環境や保育内容の改善を行った。
- ・大気汚染の状況確認を行い適切な環境の対応に努めることができた。
- ・毎月20日を美化の日とし、職員が園内外の気になる場所を清掃・片付けをすることによって、園内がきれいに保たれ、美化意識が高まった。
- ・新型コロナウイルス感染症だけでなく、感染者が出た時には、食事の配膳や机の配置に気をつけ、室内の消毒などを行い、感染防止に努めた。
- ・省エネとコスト意識付けが浸透していなかった。備品管理と意識啓発を行いながら、職員一人ひとりの意識を高めていきたい。
- ・修繕箇所が目立ち始め、優先順位をつけながら進めている。備品破損時の報告や対応が遅れることがあった。子どもが安心して生活し、伸び伸びと遊べる環境を整備していきたい。

6. 防災

- ・避難訓練では、遅番時間帯の人数確認についての課題が見つかり、ボードとタブレットを使用して在園児の人数確認を行うよう改善した。状況に合わせ、安全な保育と迅速な対応ができるよう、職員一人ひとりの責任感と危機管理能力を高め、繰り返し訓練を実施していきたい。
- ・BCP策定に伴い、全マニュアルを見直し作成することが出来た。定期的に全職員でマニュアルを確認し、災害時の対応力を高めていきたい。
- ・非常時連絡対応システムを活用し、保護者への緊急時の連絡を迅速に行うことができた。
- ・各施設の災害・防犯・防災計画を把握し、施設間での連携を図る。